

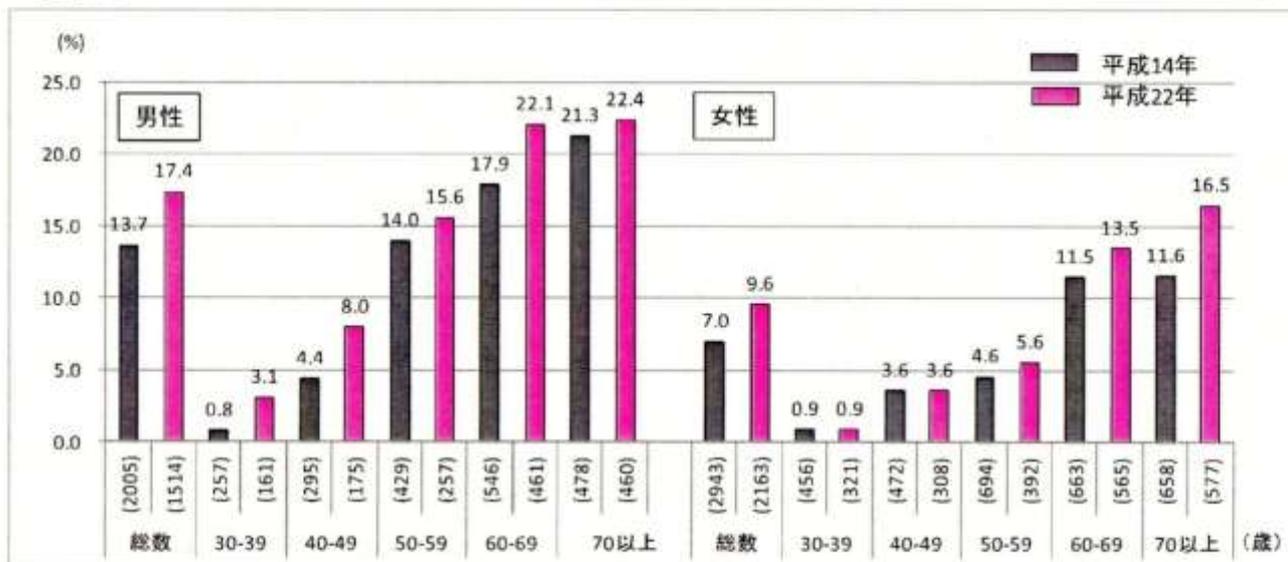
平成22年国民健康・栄養調査(全国)における「医療機関や健診で『糖尿病』と言われたことがある者」の割合は、年齢が高くなるにしたがって増加しており、各年代で男性が女性よりも高くなっています。

また、糖尿病と言われたことのある者のうち、過去から現在にかけて継続的に治療を受けている者の割合は、男性 59.4%、女性 62.7%で、30歳代、40歳代の若い世代において、約半数が現在未治療の状態にあります。

【参考】

糖尿病が強く疑われる者の割合 (30歳以上) [全国]

図19

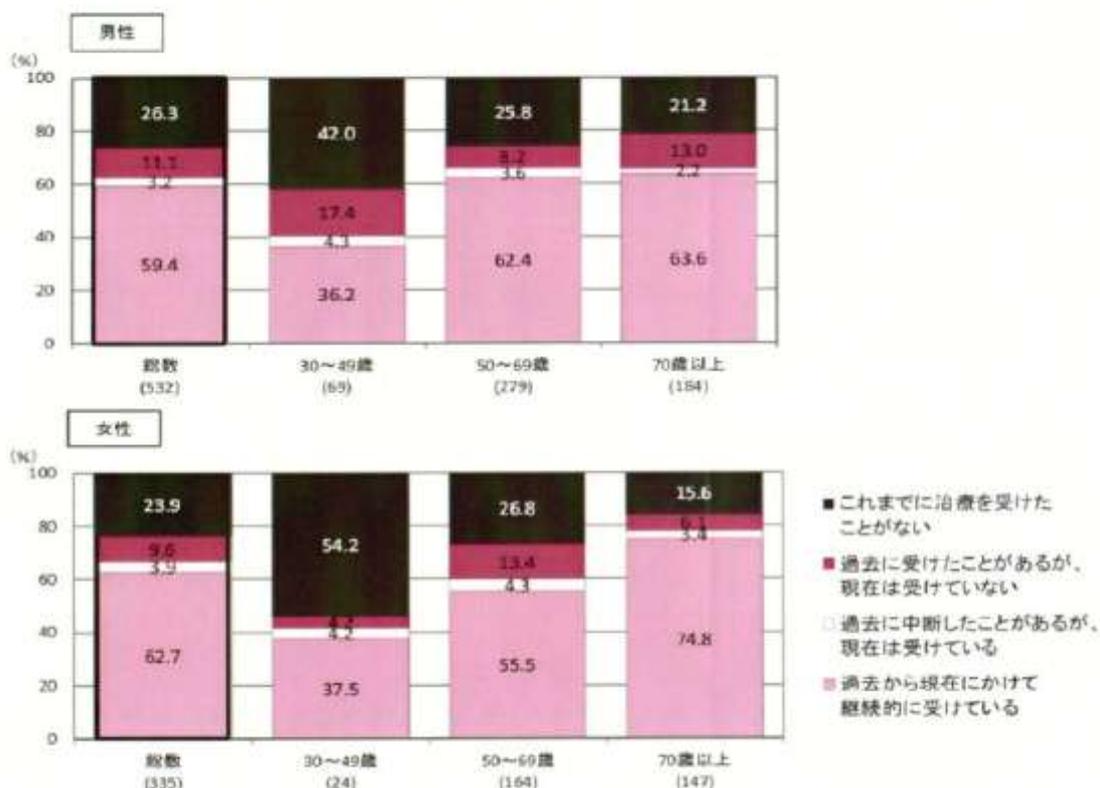


() 内は該当者数

(出典：平成22年国民健康・栄養調査)

※「糖尿病が強く疑われる者」はヘモグロビンA1cが6.1%以上、または「現在糖尿病の治療を受けている」と回答した者。平成12年調査時に当該項目を把握していないため、平成14年糖尿病実態調査を用いている。

表17-2 糖尿病といわれたことがある者における治療の状況 (30歳以上) [全国]



※括弧内は該当者数

(出典：平成22年国民健康・栄養調査)